

製品名: PPP1R3A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16428**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	140kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R3A PPP1R3A; PP1G; Protein phosphatase 1 regulatory subunit 3A; Protein phosphatase 1
別名	glycogen-associated regulatory subunit; Protein phosphatase type-1 glycogen targeting subunit; RG1
遺伝子 ID	5506.0
SwissProt ID	Q16821
免疫原	抗血清はヒト PPP1R3A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 647-696

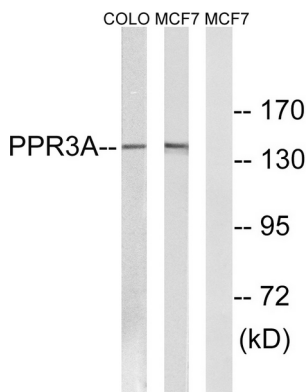
背景

骨格筋由来のグリコーゲン結合型タンパク質ホスファターゼ 1 (PP1) は、37kD の触媒サブユニットと 124kD の標的サブユニットおよび調節サブユニットからなるヘテロ二量体です。この遺伝子は、筋グリコーゲンに高親和性で結合する調節サブユニットをコードしており、グリコーゲン合成酵素やグリコーゲンホスホリラーゼキナーゼといった PP1 のグリコーゲン結合基質の脱リン酸化を促進します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: PPP1R3A の欠陥はインスリン抵抗性 (Ins 抵抗性) の原因です。、疾患: PPP1R3A の欠陥は、インスリン非依存型糖尿病 (NIDDM) [MIM:125853] (別名 II 型糖尿病) の感受性の原因です。 NIDDM は、常染色体優性遺伝、成人期発症、インスリン抵抗性を特徴とする。、ドメイン: CBM21 ドメインはグリコーゲンへの局在に関与することが知られており、ホスファターゼ複合体のいくつかの調節サブユニットの特徴である。、機能: PP1 のグリコーゲン標的サブユニットとして機能すると思われる。PP1 は細胞分裂に必須であり、グリコーゲン代謝、筋収縮、タンパク質合成の調節に関与する。グリコーゲン合成に重要な役割を果たしますが、グリコーゲン合成酵素のインスリン活性化には必須ではありません。、PTM:ISPK による Ser-46 のリン酸化は、グリコーゲン合成酵素およびホスホリラーゼキナーゼの脱リン酸化を刺激します。、類似性:1 つの CBM21 (炭水化物結合型 21) ドメインを含みます。、サブユニット:PP1 の PPP1CC 触媒サブユニットと相互作用し、グリコーゲンと結合します。、組織特異性:骨格筋および心臓。、

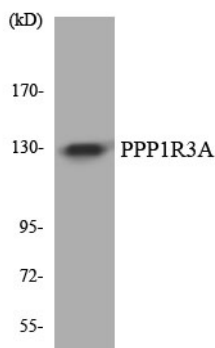
研究分野

インスリン受容体;

画像データ



PPP1R3A 抗体を用いた MCF-7 細胞および COLO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PPP1R3A 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。